

平成28年度 学校教育活動をよりよくするために一第2回学校評価の結果と分析—

平成28年3月7日
京都市立京北第二小学校

本校教育活動をより充実するために、今年度一回目の前期（10～2月）の学校生活について、児童・保護者・教職員のアンケートを実施しました。お忙しい中保護者の皆様にはご協力いただき、誠にありがとうございました。

☆学校評価の目的

- ・学校教育目標・めざす子ども像の達成に向けての学校教育の取組について、学校評価を通して、成果・課題を明らかにし、よりよい学校改善を図る。【学校づくりのビジョンの明確化】
- ・保護者・地域の方にも、育てたい「子ども像」や課題を知っていただいて、学校と共に教育に当たっていただく。【学校・家庭・地域の協働型学校評価】
- ・児童も前期の生活を振り返り、よりよい学習や生活ができるようにする。【課題解決】

☆学校評価年間計画

- ・4～5月 学校教育目標・学校経営方針等立案 学校評価計画立案
- ・9月 第一回外部評価・児童評価・教職員評価の実施
- ・9～10月 評価の分析・考察・改善策策定、学校評議員会へ結果報告
- ・2月 第二回外部評価・児童評価・教職員評価の実施
評価の分析・考察・改善策策定 結果公表
- ・3月 学校運営協議会・学校評議員会へ報告

* 4～6年生は小学校の学級経営を支援するために開発された「クラスマネジメントシート」を利用した。「子どもたちがどのように学級を見ているか」や、「毎日の生活をどのように送っているか」が分かるようになっている。それぞれの学年ごとに結果が出ているが、4～6年生の平均を出し、スコアとして算出した。スコアは平均を100とし、標準エリアは 100 ± 20 の範囲である。

保護者アンケート 自由記述欄より（抜粋）

- ・先生同士の連携がとれてないよう思うことが多々ありました。担任の先生には、はじめ疑問に思うことがありました。でもその都度話を聞いてくださり、子どものことを1番に考えてくれました。子どもも毎日楽しそうに先生のことを話してくれます。先生が子どもに言ってくださった「先生が守るから」という言葉は子どもも親もうれしい言葉でした。これからもそんな気持ちを1番に言葉にして伝えてくれる先生が二小にいてくれたらと思いました。
- ・運動会や学習発表会、少人数ながら一人一人力を發揮できる場を作ってくださり、先生方の指導のおかげと喜んでおります。どの学年もすごいと思います。「6年生を送る会」も楽しみです。
- ・学校に通うこと楽しみに過ごさせていただいております。自分の気持ちやお友達の話も毎日話して伝えてくれます。ご指導いただきありがとうございます。
- ・いつもお世話になりありがとうございます。
- ・第二小学校に入ってから6年生から1年生まで幅広いお友達と多様な大人達とかかわり丁寧に育ててもらっています。ありがとうございます。
- ・子どもたちはとても意欲的に学校生活を送っています。いつもありがとうございます。
- ・学校全体のことで給食時間をせめて30分にしてほしい。もう少し楽しく食べられるようにしてほしいと思います。

分析

学校および家庭についてのアンケート（保護者）

- ・学校生活については、前期の結果とほぼ変わらず、楽しく学校生活を送ることができている。しかし「あまり楽しんでいない」と回答している保護者も7%いるので、さらに児童理解に努めていきたい。
- ・あいさつについては、「あまりしていない」の割合が増え、前期にはなかった「していない」と回答している保護者がいた。年度当初に比べ、あいさつする子どもが減ってきてていると感じている保護者が増えている。来年度に向けての課題である。
- ・読書については「読んでいない」の回答が4ポイント減っている。今後も家庭へ働きかけを続けていかたい。
- ・「分かりやすく楽しい授業をしているか」については今回D評価（そう思わない）と回答している保護者が0であった。今後も分かりやすく楽しい授業を工夫していかたい。
- ・家庭学習の習慣についても、D評価（身についていない）の割合が0であった。しかし「あまり身についていない」の回答が20%あり、家庭学習の習慣が完全に定着しているとはいえない。
- ・学校運営については、安全確保・健全育成、学校との連携・学校行事・教育方針・情報公開など全ての項目でほぼ全ての保護者から良い評価をしていただいている。

生活についてのアンケート（低学年）

- ・前期と同じ10%の児童が「学校が楽しくない」と答えている。「楽しくない」と答えていた児童に寄り添い、その原因を取り除き、全員が「楽しい」と感じられる学校を目指していくたい。
- ・あいさつは全児童が「している」と答えており、保護者や教職員との認識の違いが表れている。
- ・「自分のことをやさしいと思うか」については、「思う」が3分の2にとどまり、前期に比べて11ポイント減っている。保護者・教職員共に「思いやりのある優しい心が育っている」と答えた割合が90%以上あることを考えると、自尊感情を高める指導が必要である。
- ・朝マラソンは全児童が「がんばっている」と答えている。継続した取組により、記録も伸びていることに喜びを感じていると思われる。
- ・困りごとに対して、先生や友達に相談している児童は73%で前期とほとんど変わらない。児童の困りに寄り添い、親身になって関わるようにしていく。
- ・学校のことや友達のことを家の人に話している児童の割合は前期と変わらないが、A評価が21ポイント増えている。親とのコミュニケーションが深まっていると考えられる。
- ・家での手伝いは93%が「している」と答えており、前期より17ポイント増えている。児童の成長の表れと考えてよいのではないか。

クラスマネジメントシートによる評価（高学年）

- ・「クラスのまとまり」「クラスのやすらぎ」「自己開示」という3つの領域においてもとても満足できる状況にある数値が出ていて、学級が児童にとって居心地の良いところであり、自分の力を発揮できるところであることがうかがえる。しかし、個別に見ると、数値の低い児童もいるので、経過観察はもとより、ヒアリングによる現状把握や問題解決に向けた手立てを工夫していくことが必要である。
- ・「友達とのつながり」の領域では、概ね満足できるものの、経過観察の必要な数値もある。高学年ともなると、互いの特徴を理解し合った友達関係ができる。そのためにも、長所のみならず、短所も認め合い、その上で互いの頑張りを尊重し合えるような関係づくりを学習や学級活動、休み時間、放課後と学校生活の全ての時間で進めていきたい。

学校評議員会（教職員）

- ・ほとんどの項目でB以上の評価を得ているが、あいさつについては40%弱の教職員が「あまりできない」と答えている。子どもの意識とのズレがあり、今後しっかりと指導していく必要がある。
- ・「学習について」の項目では、「よくできている」と答えた教職員は比較的少なかった。謙虚もあると思われるが、教材研究を進める中で自信を持って授業に臨めるようにしていきたい。

学校評議員会より

- ・「学校生活をあまり楽しく送っていない」と答えていた保護者は、子どもが家に帰って学校であつたいやなことを話すのを聞き、心配しているのではないか。
- ・この学校に不登校の児童がいないのはよい傾向である。
- ・自分をやさしいと思わない子どもは、クラスの人権目標が守れていなことなどを気にし、マイナスの評価をしているのではないか。
- ・6年生はやさしくとてもしっかりとしている。5年生も6年生の姿を見て同じようになろうと努力している。
- ・「給食時間は静かに食べる」というのは、給食を時間内に残さず食べるためには大切なことで、ワイワイガヤガヤ食べると時間内に食べられない子どもが増えるのではないか。